

平成 30 年 5 月 2 日

南の風 269

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

平尾氏は、リーダーは自らクリティカル・モーメントを見極める能力を磨くべきと言っています。

また、指導する時に、選手が自ら状況判断できるように、「選手主体で」ゲームを進めることの大切さも語っています。勿論、競技を行う選手の年齢層や経験の度合いを考慮してのことです。

267号～268号で紹介したミニバスのゲームで言えば、私はオフェンスが機能しなくなり始めた3Qのある瞬間に、クリティカル・モーメントがあったのではないかと思います。

我々ミニバスに携わるコーチは、「勝敗を分けるポイントとなる瞬間」を見逃すことなく、素早く対処し、的確な指示を出せるようにすることが求められます。

ここまで、『強いチームをつくるために』の3つのキーワードについて書きました。

さて、素晴らしい戦力が揃い、それを最大限に活用するための戦略とそれを具体化する戦術が整った。それを相手によって使い分けられるようにもなり、勝敗のポイントを見極める能力もついたとします。もはやどんな戦いにも、いかなる相手にも勝てそうに思えてきます。

ところが現実はそうとも言えません。もう一つ忘れてはいけないことがあります。絶対に欠かすことができない要素です。いわば、3つのキーワードの『+α』に当たるものです。

それは、『**戦闘意欲**』です。「どんな状況に追い込まれたとしても、最後まで全力でやり抜く力」そういう『**強い気持ち**』のことです。

戦略・戦術が進化し、深化すればするほど、それを具現化するため、実行するためには、個々の戦闘意欲が高くなければなりません。いくら非の打ちどころのない戦略・戦術をプランニングしたとしても、肝心のそれを実行する人間が動かなければ、絵に描いた餅でしかないのです。選手一人ひとりの責任感が必要となるのです。「これだけはどんなことがあってもやり遂げる！」そういう強い気持ちが個人個人になれば、戦略・戦術を実行することが不可能になります。

コーチ（リーダー）の仕事とは、突き詰めれば、フォロワーにそうした気持ちを抱かせることだと言っても過言ではないでしょう。

では、そういう戦闘意欲、責任感はどこから生まれるのでしょうか。

私は、『**チームのために**』または『**仲間のために**』尽くしたいと言う気持ちからだと思います。

「このチームのために全力を尽くすんだ！」、「みんなのために最後までがんばるんだ！」という気持ちがなければ、勝つことはできないのではないのでしょうか。こうしたチームに対する帰属感、それがもたらす一体感というものは、何にもまして重要な要素となります。

それでは、こうした「チームにコミットメント」したいという意欲は、いったいどこから湧き上がってくるのでしょうか。それはコーチ（リーダー）が、自分の思いを選手（フォロワー）に話し、共鳴させて巻き込んでいく、『**巻き込み型リーダーシップ**』からです。くわしくは、264号を参考にしてください。コーチが選手を巻き込み、共鳴させ、目標実現の暁には素晴らしいことが待っている、という熱い思いを語ることで、チーム全体で「目標の共有化」が成されると思うのです。